

齒科医学総論

総論 I 保健・医療と健康増進〔約 19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と社会保障	ア 健康・疾病・障害の概念	a 健康に関わる要因	
		b 社会環境の変化	健康の社会的決定要因
		c 疾病の自然史	疾病予防の3相5段階
		d ノーマライゼーション	バリアフリー、ユニバーサルデザイン
	イ 口腔と全身の健康増進	a 健康診断、口腔の診察・検査	歯科疾患のリスク評価
		b 健康教育・学習、保健指導、健康相談	
		c 禁煙支援	
	ウ 社会保障制度	a 社会保障の概要	
		b 医療保険	
		c 介護保険	
		d 公的扶助と公費医療	
	エ 保健・医療・福祉・介護の法規と仕組み	a 医事衛生法規	
		b 保健衛生法規	
		c 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規	
		d 予防衛生法規	
		e 薬事衛生法規	
		f 地域保健関連機関	
		g 福祉施設、介護施設	
		h 医療施設	
		i 医療連携・チーム医療とその関係職種	※病院歯科の役割
		j 保健・医療・福祉・介護の連携とその関係職種	
	オ 地域の保健・医療	a 公衆衛生活動、地域保健活動	※医療政策
		b 医療計画、健康増進計画	
		c ヘルスプロモーション	
		d プライマリヘルスケア	
		e 地域保健活動の進め方	※地域診断
		f 地域保健における都道府県、市町村、保健所の役割	
		g かかりつけ歯科医機能	
		h 救急・災害時等の歯科保健医療	
		i へき地医療	
		j 在宅医療	※歯科訪問診療
	カ 地域包括ケアシステム	a 医療と介護の連携	
		b 介護予防、生活支援	
c 地域包括支援センター			

大項目	中項目	小項目	備考
2 ライフステージ別にみた保健・福祉	ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉	a 現状、動向	健やか親子21
		b 母性保健	
		c 母子歯科保健の意義	
		d 妊産婦の歯科保健	
		e 乳幼児の歯科保健と健康診査	母子健康手帳
		f 児童福祉制度	
		g 児童虐待への対応	
	イ 学校保健、学校歯科保健と学校安全	a 現状、動向	
		b 学校保健の領域・内容	
		c 学校保健関係者	
		d 学校歯科保健教育	
		e 学校歯科保健管理	
		f 組織活動	
		g 学校安全対策	
	ウ 産業保健、産業歯科保健	a 現状、動向	
		b 労働衛生の3管理	
		c 作業関連疾患、職業性歯科疾患	
		d 健康診断、事後措置	
		e 産業歯科保健の意義	
		f 産業歯科保健活動	
		g 職域での健康増進対策	トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉、メンタルヘルス対策
	エ 成人保健、成人歯科保健	a 現状、動向	
		b 特定健康診査、特定保健指導	
		c 健康増進法に基づく保健事業	
		d 成人歯科保健活動	
	オ 高齢者保健、高齢者歯科保健	a 現状、動向	
		b 高齢者の特性	
c 高齢者歯科保健・高齢者の口腔管理			
d 高齢者の日常生活支援、介護予防、高齢者の保健事業、認知症対策		※フレイル対策、認知症施策推進大綱	
カ 障害児・障害者の保健・福祉	a 現状、動向		
	b 障害児・障害者の健康保持・増進		
	c 障害の種類と支援	身体障害、知的障害、精神障害 ※発達障害	
	d 自立支援と福祉の制度		
	e 障害児・障害者の歯科保健医療		
3 歯科法医学	ア 死因の究明	a 死体解剖と死因究明制度	
		b 死後変化	
		c 個人識別、身元確認	
4 医療経済	ア 医療経済	a 社会保障費と国民医療費	
		b 医療費負担と給付	

大項目	中項目	小項目	備考
5 国際保健	ア 国際保健	a 持続可能な開発目標〈SDGs〉	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ〈UHC〉
		b 非感染症疾患〈NCDs〉	
		c パンデミック	
		d 国際協力	国際保健医療協力機関、口腔保健における国際保健協力
6 疫学と調査	ア 疫学とその応用	a 疫学の概念	
		b スクリーニング検査	
		c 統計解析	※代表値、ばらつき、検定
		d 因果関係の成立	※バイアス
		e 観察研究、介入研究	
		f 臨床疫学	
	イ 疫学指標	a 頻度・関連を表す疫学指標	有病率、罹患率、相対危険度、寄与危険度、オッズ比
		b 歯科における疫学指標	
	ウ 保健医療統計調査	a 人口統計、保健医療統計	
		b 歯科領域における保健医療統計・疫学調査	
	エ 齲蝕・歯周疾患の疫学要因	a 齲蝕の疫学要因	
		b 歯周疾患の疫学要因	
7 感染症対策	ア 感染症対策と疫学	a 主な感染症の疫学と流行状況	
		b 感染症の予防	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉、検疫法、予防接種法
		c 院内感染対策	感染対策委員会、感染制御〈対策〉チーム〈ICT〉 ※手術部位感染〈SSI〉
8 食生活と健康	ア 国民栄養の現状と対策	a 国民栄養の現状	
		b 食事摂取基準	
		c 食生活指針	食事バランスガイド
	イ 食品保健と食事指導	a 食の安全性と機能性	※食品衛生法、食品表示法
		b 食育基本法	
		c 食生活と口腔保健	
9 環境保健	ア 環境保健対策	a 地球環境の変化と健康影響	
		b 公害による健康被害と対策	
		c 環境汚染の評価と対策	環境基準、汚染の指標、環境影響評価
		d 廃棄物処理	
		e 生活環境と健康	水、大気、換気、温熱、放射線、騒音、振動

総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化〔約15%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞・組織・器官の構造と機能	ア 皮膚・粘膜系	a 表皮・粘膜上皮、真皮・粘膜固有層、皮下組織・粘膜下組織	口腔粘膜を除く
		b 付属器	
	イ 運動・骨格系	a 骨・軟骨（骨の連結を含む）	頭頸部を除く
		b 筋	
	ウ 循環器系	a 心臓、血管系、リンパ管系	
		b 循環調節	
	エ 呼吸器系	a 気道、肺・呼吸筋	※呼吸運動
		b ガス交換	
		c 呼吸調節	
	オ 消化器系	a 消化管	※消化管ホルモン
		b 肝臓・胆道・膵臓	
	カ 造血器系	a 骨髄、造血幹細胞	
	キ 泌尿器・生殖器系	a 腎臓、尿路	
		b 体液・電解質調節	
		c 生殖器	
	ク 神経系	a ニューロン、グリア	※神経伝達物質の合成・分泌・作用
		b 感覚機能	
		c 運動機能	
		d 自律機能	
e 高次脳機能		※記憶、学習、睡眠、情動	
ケ 内分泌系	a 内分泌器官		
	b ホルモンの合成・分泌・作用		
コ 代謝系	a 糖質・脂質・タンパク質・アミノ酸・核酸・ポルフィリン代謝系		
	b 栄養素		
2 全身・口腔の生態系	ア 常在微生物叢	a 皮膚、腸管、泌尿器、生殖器	
		b 頬・舌粘膜、歯肉溝	
	イ プラーク〈口腔バイオフィルム〉	a 歯肉縁上プラーク	
		b 歯縁下プラーク	
3 免疫	ア 免疫担当細胞		
	イ 免疫系臓器	a 一次（中枢）リンパ組織	
		b 二次（末梢）リンパ組織	
	ウ 抗原処理と抗原提示		※免疫寛容
	エ 自然免疫	a 微生物の認識機構	
		b 微生物の排除機構	
	オ 獲得免疫	a 体液性免疫	
b 細胞性免疫			

大項目	中項目	小項目	備考
4 頭頸部の構造	ア 頭頸部の部位	a 頭蓋の全容	
		b 頭蓋骨（関節、靭帯を含む）	※舌骨、耳小骨
		c 頸椎	
	ウ 頭頸部の筋系	a 顔面筋（表情筋）	
		b 咀嚼筋	
		c 浅頸筋	胸鎖乳突筋、広頸筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群
		d 頸筋膜（浅葉、気管前葉、椎前葉、頸動脈鞘）	
	エ 頭頸部の脈管系	a 動脈系	
		b 静脈系	
		c リンパ系	
	オ 頭頸部の内臓系	a 口腔	口唇、口腔前庭、固有口腔、口蓋、口（腔）底、頬、口峽
		b 唾液腺	
		c 舌、扁桃	
		d 咽頭、喉頭	
	カ 頭頸部の神経系	a 脳神経	
		b 脊髄神経	頭頸部に分布するものに限る
キ 頭頸部の局所解剖	a 画像解剖		
	b 組織隙（筋膜隙）		
5 歯と歯周組織の構造	ア 歯の形態	a 基本事項	生物学的特性、生歯、歯式、方向用語、歯の外形、歯髓腔の形態、歯根の形態、三歯徴（三表徴）
		b 乳歯	
		c 永久歯	
		d 特殊な形態	
	イ 組織と性状	a エナメル質、象牙質、歯髓	
		b 歯周組織	
6 口腔・顎顔面の機能	ア 感覚	a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇	
		b 味覚、嗅覚	
		c 象牙質、歯髓、歯根膜	
		d 咀嚼筋筋紡錘、顎関節受容器	
	イ 運動	a 下顎位、咬合接触、咬合様式、下顎運動	
		b 顎反射	
		c 舌・口唇・頬・顔面運動	
		d 吸啜、嘔吐、咳嗽、咽頭絞扼反射	
	ウ 咀嚼	a 咀嚼能力	
		b 咀嚼運動の調節	

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 嚥下	a 摂食嚥下の5期、プロセスモデル	
		b 嚥下の神経機構	
	オ 発声、構音	a 発声器官	
		b 構音器官	
	カ 唾液分泌	a 唾液の性状と機能	
		b 唾液の分泌機構	
7 人体の成長・発達・加齢変化	ア 小児の機能	a 運動・感覚機能	
		b 認知・言語機能	
		c 情緒、社会性	
	イ 発育区分における成長・発達の評価	a 身体成長の評価法	Kaup指数、Rohrer指数、BMI
		b 年齢による成長評価法	歴年齢、生理的年齢
		c 精神発達の評価法	精神年齢、発達スクリーニング検査
	ウ 口腔・顎の機能の発達	a 摂食嚥下機能	
		b 唾液分泌機能	
		c 味覚	
		d 口腔機能の評価法	
エ 口腔・顎顔面の加齢変化（老化）	a 器質的変化		
	b 機能的変化		
8 口腔・顎顔面の発生・成長・発育	ア 頭頸部の形成	a 鰓弓（咽頭弓）	
		b 顎顔面（口蓋、顎関節を含む）	※形成異常
		c 舌、唾液腺	
	イ 歯・歯周組織の形成と歯の萌出	a 歯胚の形成	歯堤、歯胚
		b 歯の硬組織形成	※歯髓
		c 歯周組織形成	
		d 歯の萌出	※歯根形成
	ウ 骨組織代謝	a 軟骨内骨化、膜内（膜性）骨化	
		b 形成、吸収、改造（リモデリング）	※細胞間情報伝達
		c 石灰化機構	
	エ 頭部の成長・発育	a 頭蓋	
b 歯列、咬合			

総論Ⅲ 病因、病態〔約8%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因・病態	ア 内因・外因		
	イ 細胞・組織の損傷	a 代謝障害 (変性)	
		b 細胞死	
	ウ 修復と再生	a 再生	
		b 創傷治癒	
		c 異物処理	
	エ 細胞・組織の適応	a 肥大	
		b 過形成	
		c 萎縮	
		d 化生	
	オ 循環障害	a 全身の循環障害	
		b 局所の循環障害	
	カ 炎症	a 病因	
		b 分類と病態	
	キ 感染症	a 病原微生物	
		b 感染症	
	ク 免疫異常	a 免疫不全	
		b 自己免疫疾患	
		c アレルギー (過敏症)	
	ケ 嚢胞	a 病因	
		b 分類と病態	
		c 組織学的構造	
	コ 腫瘍	a 病因	
		b 分類と病態	
		c 組織学的構造	
		d 口腔潜在的悪性疾患	※前癌状態、前癌病変
		e 腫瘍と宿主の関係	
サ 疼痛	a 侵害受容性疼痛		
	b 神経障害性疼痛		
	c 口腔・顔面領域の疼痛		
	d その他の疼痛		
シ 中毒、放射線障害	a 中毒の発生要因・病態生理		
	b 放射線の影響		
ス 医原病	a 検査・診断に伴う医原病		
	b 治療に伴う医原病		
2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態	ア 主な病因・病態	a 先天異常・発育異常	
		b 歯・歯髄・歯周組織の疾患	
		c 口腔粘膜の疾患	
		d 軟組織の疾患	
		e 顎骨・顎関節の疾患	
		f 唾液腺の疾患	
		g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患	

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 歯の喪失に伴う変化・障害	a 口腔・顎顔面領域の変化・障害	
		b 全身への影響	
3 個体の死	ア 概念		
	イ 判定		

総論Ⅳ 主要症候〔約4%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身の症候	ア 代表的な症候		発熱、発汗、全身倦怠感、食思〈欲〉不振、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫
	イ 皮膚・粘膜		水疱、膿疱、蕁麻疹、湿疹、紅潮
	ウ 呼吸・循環器		呼吸困難、息切れ、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、動悸、頻脈・徐脈、不整脈、血圧異常、心不全、睡眠時無呼吸
	エ 消化器		悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、黄疸、腹水
	オ 血液・造血器、免疫		貧血、出血傾向、血栓傾向
	カ 腎・泌尿器・生殖器		乏尿、無尿、多尿、頻尿
	キ 心理、精神機能		認知機能低下、睡眠障害、知的能力障害、失見当識
	ク 神経系、運動器		頭痛、高次脳機能障害、運動麻痺、不随意運動
	ケ 内分泌・代謝・栄養		低血糖、高血糖、色素沈着
2 口腔・顎顔面の症候	ア 歯、歯髄・根尖歯周組織		
	イ 歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		※不正咬合
	エ 口腔粘膜		※舌
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 軟組織、唾液腺		筋、リンパ節
	ク 口腔・顎顔面の機能		開口・閉口障害、咀嚼障害、哺乳障害、摂食嚥下障害、言語障害〈言語機能障害〉、感覚障害、口腔乾燥、口腔機能発達不全、口腔機能低下

総論 V 診察 [約 8 %]

大項目	中項目	小項目	備考	
1 診察総論	ア 医療面接			
	イ 診察の基本			
	ウ 全身の診察			
	エ 救急時の診察			
	オ 根拠に基づいた医療 (EBM)		※診療ガイドライン	
	カ 評価の基本	a バイタルサイン		
		b 意識レベル		Japan Coma Scale (JCS)
c 重症度と緊急度				
d 既往歴・合併症				
2 小児への対応	ア 身体的特徴			
	イ 心理・社会的特徴			
	ウ 診察の基本			
	エ 年齢に応じた対応			
	オ 発達障害のある小児への対応	a 自閉スペクトラム症 [自閉症スペクトラム障害 (ASD)]		
		b 注意欠如・多動症 [注意欠陥多動性障害 (ADHD)]		
c 限局性学習症 [学習障害 (LD)]				
3 障害者への対応	ア 障害の概念			
	イ 障害の分類	a 身体障害		
		b 知的障害		
		c 精神障害		
		d 発達障害		
	ウ 行動調整			
	エ 診察の基本			
	オ 歯科治療上留意すべき事項			
カ 健康支援、患者管理				
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴			
	イ 心理・社会的特徴			
	ウ 診察の基本			
	エ 歯科治療上留意すべき事項		※投薬上の注意	

大項目	中項目	小項目	備考
5 高齢者への対応	ア 診察の基本	a 診察時の注意	※移乗、合理的配慮
	イ 評価	a 日常生活動作〈ADL〉	
		b 手段的日常生活動作〈IADL〉	
		c 認知機能	
		d 運動機能	※フレイル、サルコペニア
		e 摂食嚥下障害	※Functional Oral Intake Scale〈FOIS〉、Food Intake Level Scale〈FILS〉
		f 要介護度、介護状況	※BDR指標
		g Quality of Life〈QOL〉	※口腔関連QOL
		h 精神心理状態	※抑うつ
		i 栄養状態	※BMI、GLIM基準、栄養サポートチーム〈NST〉
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患	a 呼吸器疾患	※肺炎、慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、喘息
		b 循環器疾患	※高血圧症、心疾患
		c 消化器疾患	※肝疾患、胃・十二指腸潰瘍、肝炎
		d 血液・造血器疾患	※貧血、白血病、出血性素因、血友病
		e 腎・泌尿器・生殖器疾患	※慢性腎不全〈CKD〉
		f 精神疾患	※認知症、統合失調症、双極性障害〈躁うつ病〉
		g 神経・運動器疾患	※脳血管疾患、認知症、てんかん、脳性麻痺、Parkinson病、重症筋無力症、筋ジストロフィ、筋萎縮性側索硬化症
		h 内分泌・代謝・栄養疾患	※糖尿病、脂質異常症
		i 感染症	※結核、梅毒、ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症、ウイルス性肝炎
		j 悪性腫瘍	
	k 免疫・アレルギー疾患	※関節リウマチ、アナフィラキシー、金属アレルギー、全身性エリテマトーデス〈SLE〉、移植片対宿主病〈GVHD〉、IgA血管炎〈アレルギー性紫斑病〉	
	イ 身体的特徴への配慮		
	ウ 心理・社会的特徴への配慮		
	エ 医療情報の収集		薬剤（和漢薬を含む）情報の収集、診療情報提供

総論VI 検査〔約14%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔検査・顎口腔機能検査	ア 口腔検査	a 歯の硬組織の検査	
		b 歯髄・根管の検査	
		c 歯周組織（歯周病）検査	※口腔清掃状態の検査
		d 舌・口腔粘膜検査	※生体染色法
		e 歯列・咬合の検査	
		f 口臭検査	
	イ 顎口腔機能検査	a 下顎運動検査	
		b 顎関節・筋機能検査	※筋電図検査
		c 咀嚼機能検査	
		d 唾液・唾液腺検査	
		e 摂食嚥下機能検査	
		f 発声・構音・発語検査	
		g 鼻咽腔閉鎖機能検査	
		h 感覚（味覚、体性感覚）の検査	
2 画像検査	ア エックス線画像の原理	a 電離放射線	電磁放射線、粒子放射線、放射能、放射性同位元素
		b 放射線の単位・測定	
	イ 画像検査における医療情報	a 医療画像システム（PACS）	DICOM、デジタル画像処理
		ウ 医療放射線被曝の防護と管理	a 正当化・最適化・線量限度
	b 患者と医療従事者の放射線防護		医療被曝・職業被曝・公衆被曝
	エ エックス線単純撮影	a コントラストと分解能	
		b 口内法エックス線撮影	
		c パノラマエックス線撮影	
		d 顎顔面頭蓋部エックス線撮影	
	オ CT、歯科用コーンビームCT	a 原理、特徴、適応	※造影CT
	カ MRI	a 原理、特徴、適応	※T1強調像、T2強調像、プロトン密度強調像、脂肪抑制像、造影MRI、ダイナミックMRI、拡散強調像
	キ 核医学検査	a 原理、特徴、適応	シンチグラフィ、シングルフォトンエミッションCT（SPECT）、ポジトロンエミッション断層撮像（PET）
	ク 超音波検査	a 原理、特徴、適応	※ドプラ法、エラストグラフィ
	ケ 各画像検査の安全管理	a 磁場、電磁波、超音波の作用	
		b 造影剤と副作用	
	コ 画像の鑑別診断	a 正常画像と主要疾患画像	
		b 全身疾患の画像所見	胸部エックス線画像

大項目	中項目	小項目	備考
3 検体検査	ア 検体検査	a 一般臨床検査	※尿、糞便
		b 血液学検査	※血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈
		c 生化学検査	※タンパク、生体色素、酵素、含窒素成分、糖代謝関連物質、脂質代謝関連物質、電解質、推算糸球体濾過量 (eGFR)
		d 免疫血清学検査	※炎症マーカー、自己抗体、血清学的診断
		e 微生物学検査	塗抹検査 (染色法)、培養検査、薬剤感受性試験、核酸検査 (遺伝子検査)、Polymerase Chain Reaction法 (PCR法)
		f 病理学検査	
		g 染色体・遺伝子検査	
		h 薬物アレルギー検査	※リンパ球刺激試験、好塩基球活性化試験
		イ 検体の採取・保存・確認	
4 生体機能検査	ア 臓器機能検査	a 呼吸機能検査	パルスオキシメトリ、スパイロメトリ
		b 心機能検査	心電図、心臓超音波検査
		c 消化管機能検査	
		d 肝・胆道機能検査	色素排泄試験
		e 内分泌・代謝機能検査	
		f 腎機能検査	クレアチニンクリアランス (CCr)
	イ 電気生理学検査	a 脳波検査	
		b 筋電図・神経伝導検査	徒手筋力テスト
5 その他の検査	ア 皮膚・粘膜検査	a アレルギー検査	プリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
		b 感覚検査	二点識別検査、SWテスト
	イ 睡眠検査	a ポリソムノグラフィ	
		b 睡眠時筋電図検査	

総論Ⅶ 治療〔約19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 治療の基礎	ア 治療計画	a 治療計画の立案・提示	※インフォームド・コンセント
		b 治療の評価	主訴の改善
	イ 治療の種類	a キュアとケア	
		b 原因療法と対症療法	
		c 保存療法と外科療法	
		d 緩和療法、支持療法	
	ウ ライフステージ別の治療	a 小児の治療	インフォームド・アセント
		b 成人の治療	
		c 高齢者の治療	
	エ 全身管理に留意すべき疾患	a 皮膚・粘膜疾患	
		b 呼吸器疾患	呼吸不全、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎
		c 循環器疾患	心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症、心不全、心内膜炎、弁膜症、先天性心疾患、心筋症、動脈硬化症、動脈瘤
		d 消化器疾患	消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変
		e 血液・造血器疾患	貧血、白血病、出血性素因、血栓傾向
		f 腎・泌尿器・生殖器疾患	慢性腎臓病（CKD）、腎不全
		g 精神疾患	統合失調症、うつ病
		h 神経・運動器疾患	脳出血（脳内出血）、脳梗塞、くも膜下出血、認知症、Parkinson病、てんかん、脳性麻痺、脊髄損傷、重症筋無力症、筋ジストロフィ
		i 内分泌・代謝・栄養疾患	糖尿病、甲状腺疾患、骨粗鬆症、脂質異常症
		j 免疫・アレルギー疾患	免疫不全症、自己免疫疾患、アレルギー疾患
		k 感染症	ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症
l 小児疾患			
m その他		アルコール・薬物等依存症、妊婦、臓器移植患者、菌交代症	
オ 障害者の治療			

大項目	中項目	小項目	備考
2 歯・歯周組織・咬合の治療	ア 基本的術式	a 歯の硬組織疾患の治療	
		b 歯内療法	
		c 歯周治療	※歯周組織再生療法 FGF-2製剤
		d 歯の欠如・欠損の治療	
		e 不正咬合の治療	
		f 外傷歯の治療	
3 救急医療	ア 一次救命処置	a 心肺蘇生	
		b AEDの使用	
		c 気道異物への対応	
	イ 二次救命処置	a 高度な気道管理	
		b 静脈路確保と薬物療法	※循環器作用薬
		c 電氣的治療	
ウ 誤飲・誤嚥への対応			
4 手術・周術期の管理、麻酔	ア 手術	a 手術の適応と時期	
		b 消毒と滅菌	標準予防策 (standard precautions)、感染経路別予防策
		c 切開法	
		d 止血法、縫合法	
		e 穿刺、切開排膿、ドレナージ	
		f 顎口腔領域の手術	※偶発症
		g 創の管理	
	イ 周術期の管理	a 口腔の評価、口腔機能管理	
		b 全身状態の評価	
		c 全身的併発症、合併症	
		d 術前・術中・術後管理	疼痛管理、感染予防、栄養管理
		e モニタリング	
		f 外科的侵襲に対する反応	
	ウ 麻酔	a 局所麻酔	局所麻酔薬、血管収縮薬
		b 全身麻酔	麻酔前投薬、吸入麻酔薬、静脈麻酔薬・筋弛緩薬・麻薬性鎮痛薬とその拮抗薬、日帰り全身麻酔
c 精神鎮静法		吸入鎮静法、静脈内鎮静法	
5 緩和医療とターミナルケア	ア 緩和医療		癌性疼痛、麻薬性鎮痛薬
	イ ターミナルケア		アドバンス・ケア・プランニング (ACP)
6 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		急性期、回復期、維持期 (生活期)、自立生活支援
	イ リハビリテーションの技術	a 摂食嚥下障害のリハビリテーション	咀嚼障害、摂食嚥下障害
		b 言語障害のリハビリテーション	構音障害
		c 口腔機能管理	

大項目	中項目	小項目	備考	
7 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎	a 放射線の作用、放射線感受性、生物学的効果、放射線治療の治療効果		
		イ 口腔領域の放射線治療	a 治療の意義と目的 b 種類、適応、特徴	
	ウ 放射線治療の有害事象と口腔管理	a 有害事象の種類と特徴		
		b 有害事象に対する口腔管理		
	8 薬物療法	ア 薬物の選択	a 薬物療法の種類と特徴	
			b 薬効	薬物の作用部位・作用機序
c 薬物動態			吸収・分布・代謝・排泄	
イ 用法・用量		a 投与経路と剤形の種類と特徴		
		b 用量と反応		
		c 服薬計画・指導		
		d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策		
		e 薬物適用の注意	薬物の連用・併用、薬物・食物・嗜好品との相互作用、薬効に影響を及ぼす身体的要因、ライフステージ ※ポリファーマシー	
ウ 疾患に応じた薬物療法		a 鎮痛薬		
		b 抗炎症薬		
		c 抗微生物薬		
		d 抗腫瘍薬		
		e 代謝調節薬、ビタミン		
		f 血液・造血器作用薬		
		g 齶蝕予防薬		
		h 和漢薬（漢方薬）		
9 その他の治療法		ア 物理療法		温熱、寒冷、電気、マッサージ、超音波治療
		イ 運動療法		口腔筋機能療法
	ウ 凍結療法			
	エ レーザー療法			
	オ 免疫療法			
	カ 酸素療法			
	キ 画像診断的介入治療〈インターベンショナルラジオロジー〉			
	ク 食事・栄養療法		経腸栄養 [経口栄養、経鼻経管栄養、胃瘻〈PEG〉、腸瘻]、経静脈栄養	
	ケ 輸液・輸血療法		※自己血輸血	
	コ 精神療法		一般心理療法、カウンセリング、自律訓練法、行動療法、認知行動療法	

総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 材料の種類	a 有機材料	
		b 無機材料	
		c 金属材料	
		d 複合材料	
	イ 材料の性質	a 物理的性質	
		b 機械的性質	
		c 化学的性質	
		d 生物学的性質と生体安全性	
2 診療用器械・器具	ア 診療用器械	a 歯科用ユニット	
		b エアタービン	
		c マイクロモーター	
		d レーザー	
		e 口腔内スキャナー	
		f 超音波スケーラー	
		g 光照射器	
		h 歯科用実体顕微鏡	
	イ 切削・研削工具、研磨材		
	3 印象用材料	ア 非弾性印象材	a 酸化亜鉛ユージノール
b モデリングコンパウンド			
c 印象用石膏、印象用ワックス			
イ 弾性印象材		a アルジネート	
		b 寒天	
		c シリコーンゴム	
		d ポリエーテルゴム	
ウ 機能印象材			※アクリル系印象材（テ イッシュコンディショナ ー、ダイナミック印象材）
エ 印象用トレー			
オ 咬合採得用材料			
4 模型用材料、ワックス	ア 歯科用石膏	a 普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏	
	イ 歯科用ワックス	a インレーワックス	
		b パラフィンワックス、シートワックス、レディキャストイングワックス、スティッキーワックス、ユーティリティーワックス	
5 成形修復・予防 充填塞・歯内療法 用材料	ア 成形修復用材料	a コンポジットレジン	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
	イ 予防充填塞用材料	a アクリルレジン、コンポジットレジン	
		b グラスアイオノマーセメント	

大項目	中項目	小項目	備考
6 歯冠修復・義歯用材料	ウ 歯内療法用材料	a 根管充填材	
		b 仮封材、裏層材、覆髄材	
	ア レジン（樹脂）系材料	a 加熱重合型アクリルレジン、常温重合型アクリルレジン	
		b ポリスルフォン、ポリカーボネート	
	イ セラミック材料	a 陶材	※金属焼付用陶材
		b ジルコニア、アルミナ、ガラスセラミックス	
	ウ 金属材料	a 金合金	※陶材焼付用金合金
		b 低融銀合金、金銀パラジウム合金	
		c 陶材焼付用合金	
		d コバルトクロム合金	
		e チタン、チタン合金	
		f ステンレス鋼、歯科用磁性合金	
	エ 複合材料	a 間接修復用コンポジットレジン	
		b 歯冠補綴用コンポジットレジン	
		c CAD/CAM用コンポジットレジン	
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用リライン材		※硬質リライン材、軟質リライン材
	キ 支台築造材		※ファイバーポスト
	7 成形技術・機器	ア レジン（樹脂）系材料の成形技術・機器	a 加熱重合
b 常温重合（流し込み成形）			
c 光重合			
d 加熱・加圧成形			※口腔内装置
イ セラミック材料の成形技術・機器		a 陶材の築盛・焼成	
		b 陶材と金属の接合	
		c 加熱・加圧成形	
ウ 金属材料の成形技術・機器		a 鋳造工程	※鋳造機、鋳造欠陥、埋没材、鋳造精度
		b 金属の接合	※ろう付け、溶接、鋳接
		c 金属の加工	※塑性加工、焼きなまし、熱処理
エ CAD/CAM	a 切削加工	※技工用デスクトップスキャナー	
	b 積層造形（付加製造）		
8 接着処理・技術	ア 接着性モノマー		
	イ 歯質接着処理	a エナメル質被着面処理	
		b 象牙質被着面処理	
	ウ 歯科材料接着処理	a セラミックス被着面処理	
		b コンポジットレジン被着面処理	
		c 金属被着面処理	

大項目	中項目	小項目	備考
9 装着用材料	ア 合着・接着用セメント	a レジンセメント	
		b グラスアイオノマーセメント、 レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
c その他の歯科用セメント		※リン酸亜鉛セメント、 ポリカルボキシレートセメント	
	イ 仮着用セメント		※酸化亜鉛ユージノールセメント、EBAセメント
10 歯科矯正用材料・器具	ア 線材料	a ステンレス鋼線	
		b コバルトクロム合金線	
		c チタン合金線	※ニッケルチタン合金、 チタンモリブデン合金、 チタンニオブ合金
		d その他の合金線材	※ブラスワイヤー（真鍮線）
	イ バンド、ブラケット、チューブ		
	ウ エラスティック材、コイルスプリング		
	エ 接着用材料		
	オ 矯正用プライヤー		
	カ 床用レジン、熱可塑性樹脂		
	11 口腔インプラント・口腔外科・ 歯周治療用材料	ア 口腔インプラント用材料	
イ 骨補填用材料			
ウ 骨接合・顎骨再建用材料			
エ 皮膚・粘膜欠損修復材（コラーゲン、 フィブリン糊）			
オ 細胞遮断膜			
カ エナメルマトリックスタンパク質			